

### その3

#### 第2章：真実か領域か？

霊的な領域についての信頼できる情報源は聖書だけであることを確認した後、私たちは「霊的戦い」を定義する必要があります。

“霊的戦い”は、現代の福音主義において、最も広く誤解されているテーマです。

多くのクリスチャンが「霊的戦い」という言葉を聞いたり読んだりすると、サタンを縛る、いばらの垣根に祈る、悪魔祓いをする、悪魔を叱るなど、ある種の祈り、マントラ、呪文、実践によって悪魔と戦う神秘的な手と手の戦いを思い浮かべ、サタンから領域を奪ってキリストのために主張しようとしています。

これらの具体的な実践方法は、少しも聖書的ではないだけでなく、霊的戦いが、霊的または物理的な領土を獲得するために、悪魔との直接的な交流を必要とするという考え方もありません[1]。

私たちは、霊的戦いについての説明を聖書に求め、聖書が私たちのためにこの戦いを定義してくれるようにするしかありません。

私たちは、オカルト的、神秘的な実践や世界観を採用してはいけません。

私たちは、霊的な戦いに効果的だと思われる慣習を自由に作ることはできません。

私たちは聖書に立ち返り、何が本当の霊的戦いなのかを神に教えていただくしかありません。

ですから、聖書のテキストを文脈に沿って正しく解釈した上で行われていない実践は、否定されなければなりません。

霊的戦いに関する私たちの考えや理解は、すべて聖書に基づいていなければなりません。

私たちは肉の中を歩いていますが、肉に従って戦うではありません。

私たちの戦いの武器は肉のものではなく、要塞を破壊するための神の力です。

私たちは、神の知識に反して提起された思索やあらゆる『高尚なもの』を破壊しています。

そして、すべての考えがキリストの従順のなかに捕らえられ、あなたの従順が完全になったときには、すべての不従順を罰する準備ができるのです（2コリント10：3-5）。

もしかしたら、エペソ6章の神の武具についての議論や、福音書の中でイエスが悪魔に命令したり、悪魔を追い出したりする箇所を期待していたかもしれません。

しかし、ここでは、もっと基礎的なレベルから始めて、「霊的戦いとは何か」という問いに答えてみたいと思います。

2コリント10章では、使徒パウロが霊的戦いの本質を定義し、説明しています。

ここでは、私たちがどのように戦うのか、何と戦うのか、なぜ戦うのかが語られています。

2コリント10章では、霊的戦いの定義と説明があります。

ここでは、私たちがどのように戦うのか、何と戦うのか、なぜ戦うのかが語られています。

2コリント10章では、霊的な戦いの定義と説明がありますが、これは私たちが敵と戦うための装備を整える上で重要な役割を果たしています。

他の聖書の文章と同様に、私たちは、その文章の意味を正しく理解するために、文脈に注意を払う必要があります。

パウロはコリント人への手紙2を、自分自身と同僚、そして自分のミニストリーを守るために書きました。

コリントの教会では、第1コリントを書いた後、パウロに対する人格攻撃としか言いようのないキャンペーンを始めた人たちがいました。

コリントには、使徒と名乗る人たちがいました。

彼らは非常に優秀で、才能があり、説得力のある人物で、常にパウロを攻撃し、コリントの信者の心と忠誠心を揺さぶっていました。

この偽教師たちは、パウロの動機を非難しました。

彼らは、パウロがお金のためにミニストリーをしていると主張しました。

彼らは、パウロが誠実さに欠けていると言いました。

彼らは、パウロがあることを言って別のことをする偽善者だと言ったのです。

パウロと一緒に働き、仕えていた人たちでさえ、彼らの攻撃から逃れることはできませんでした。

彼らはテトスを攻撃し、彼の動機を非難しました。

彼らは、パウロもテトスも神から与えられたものを持っていないと主張しました。

彼らは、パウロの外見、能力、説教をあざけりました。パウロは、これらの人々を「偽りの使徒、キリストの使徒を装った偽りの働き者」（2コリント11：13-15）と厳しく非難しました。

彼は、サタンが光の天使のように見えるのだから、彼（サタン）のしもべたちも同じようにキリストのしもべのように見えるだろうと言いました。

コリントの彼らはキリストの使者というよりも、実際には悪魔に触発されて力を与えられた偽教師であり、サタンの使者なのです。

パウロがコリントの信徒への手紙を書いたのは、偽教師たちの攻撃から自分と自分の同僚を守るためでした。

パウロは、自分と一緒に旅をしていたテトスを弁護し、テトスの誠実さ、働く意欲、罪のない生活を

コリント人に思い出させました。

パウロは、自分の使徒としての地位、権威、力、宣教、行動、動機、そして最も重要なこととして、パウロが主張する真理である福音のメッセージを擁護しました。

時折、パウロはコリントの批評家たちの言葉を引用しました。

例えば、主があなた方を滅ぼすためではなく、あなた方を高めるために与えられた私たちの権威について、私が多少自慢したとしても、私は恥じることはありません。というのは、「彼の手紙は重くて強いが、彼の個人的な存在は印象に残らず、彼の話し方は卑しい」（2コリント10：8～10）とされているからです。

彼の批評家たちは、「パウロは、あんなに弱くて印象の薄い人間なのに、強い手紙を書くことができる。彼はそれほどタフではない。彼はそれほどタフではないし、それほど優れた弁舌家でもありません。彼は卑屈だし、彼のスピーチは哀れだ。

パウロはコリントに行って、これらの問題に直接対処することを計画していましたが、実際には、彼が到着する前にコリントの人々がこの悪夢に対処することを望んでいたのです。

この章の冒頭で、パウロは次のように述べています。「さて、私、パウロは、キリストの柔和さと優しさをもって、あなたがたに勧めます。私は、私がいるときには、私たちが肉に従って歩いているかのように私たちを見ている人たちに対して、私が勇気を持って提案するような自信を持って、大胆になる必要がないようにお願いします（2コリント10：1-2）。

パウロは手紙の中では強いと言われていましたが、あの小さな男がコリントに現れるまで待ってください。

彼は2節で、自分がしようとしているような大胆で強い態度で彼らと対峙する必要があることを望んでいると言いました。

これは警告です。”私が到着する前にこの状況进行处理するか、私が処理するか、私が処理したら、あなたはそれを気に入らないでしょう。

“10章6節で、パウロは「あなたがたの従順が完全になったときには、すべての不従順を罰する用意があります」と言いました。

“このコリントの状況でパウロが考えていた従順とは、これらの人々やその方法、そしてパウロに対する攻撃を全面的に拒否することでした。

もし教会がこれらの男たちを拒絶して、パウロと彼のメッセージとミニストリーを再確認しようとするならば、パウロはやってきて、これらの男たちの不従順を罰するでしょう。

2節でパウロは、自分が来るが、それは良いものではないだろうと言いました。

6節では、パウロはすべての不従順を罰するために来ると言いました。  
これらの節の間には、靈的戦いについてのテキストがあります。

3-5節で、パウロは自分の宣教方法と「他の人たち」の宣教方法をはっきりと比較しています。  
パウロは自分のミニストリーを、これらの偽教師のミニストリーと対比させながら説明しています。  
このような背景を踏まえた上で、私たちがどのように戦い、何と戦い、なぜ戦うのか、この聖句を詳しく見ていきましょう。

どのように戦うか コリントの偽教師たちは、パウロの宣教の方法や戦術が肉的で世俗的であると主張しました。

彼らは、パウロのミニストリーを「十分に靈的ではない」としました。

“彼らは、パウロの宣教は肉的で、本当の靈的問題を扱っていないと言いました。

彼らによると、パウロは本当の靈的な戦いをしておらず、肉的なレベルでしか関わっていなかったのです。

パウロは3-4節でこう答えています。「私たちは肉の中を歩いていますが、肉にしたがって戦うのではありません。

肉体的にはともかく、要塞を破壊するには神の力が必要である。

ここでの「肉」という言葉は、倫理的、道徳的な肉の欲的な意味で使われているのではありません。

パウロは、私たちが「肉的に」あるいは「不道徳に」歩んでいると言っているのではありません。

パウロは、私たちが「肉的に」あるいは「不道徳に」歩んでいるのではなく、通常の、ただ文字通りの意味で使われています。

パウロは、人間としての存在で、その個人の限界を含めて、普通に存在しているということを言っています。

幸いなことに、私たちの戦いの方法は、私たちの肉体的性質や人間の弱さによって制限されるものではありません。

私たちは、単に肉にしたがって戦争をするのではありません。

私たちは、肉体的には歩いていますが、精神的には戦っています。

神は、靈的な戦いに使うべき武器を私たちに与えておられます。

私たちが戦っているのは肉体的な戦いではなく、靈的な戦いなので、私たちが使う武器も肉体的なものではなく、靈的なものなのです。

パウロが「私たちの戦いの武器は肉のものではありません」と言っているのは、人間が作ったりデザインしたりしたものではないという意味です。

私たちは、真理を前進させるために神から与えられた天の武器を持っているのであって、人間が領土を守るために設計したものではありません。

パウロは、私たちがしばしば直面する非常に現実的な誘惑、すなわち、私たちの人生、歩み、ミニストリー、あるいは戦いに、純粋に人間的な観点からアプローチすることを強調しました。

私たちはこの世界を歩いていて、常に人間の知恵、人間の方法論、人間の考え方、世俗的な方法の最高のものを浴びせられています。

私たちは、どのようにミニストリーを行うべきか、どのように悪魔と戦うべきか、どのようにクリスチャン・ライフを送るべきかについて、新しく改良された理論に囲まれています。

私たちはしばしば、この世の手段で神の目的を達成することができると言われる。

しかし、これは真実からかけ離れています。

この先の章では、完全に人間が作ったもので、神から与えられたものではない霊的戦いの方法を取り上げます。

霊的戦いの「やり方マニュアル」は、神の御言葉からではなく、人間や悪魔の心や考えから生まれた戦術や方法であふれています。

私たちは、自分の「武器」が人間由来のものではないことを確認しなければなりません。

私たちは肉を持ってここを歩いていますが、神の目的を達成するために肉的な手段を用いることはありません。

コリントの信徒への手紙1と2を読むと、「肉的な武器」の例がいくつか出てきます。

“コリント人は、人間の知恵と人間の理解を信頼し、それを神の知恵よりも高く評価していました。

彼らは、人間の能力、賜物、才能を誇示することを大切にしていました。

彼らは、パウロが他の人ほど弁舌の才能がないことを理由に批判しました。

彼らは、さまざまな教師の周りに部門を作り、自分たちの能力を自慢しました。

彼らは男性からの承認と多くの支持者を求めました。

これらは、パウロが否定した肉の武器です。

実際、第一コリント1章でパウロは、コリントに来たとき、そのような人間中心のミニストリーの方法を採用すれば人望が得られるとわかっていたにもかかわらず、わざとそのようなレベルでコリントの人々と関わることを拒否したと明かしています。

その代わりに、コリントで支持者を得るために必要なものとは正反対の、愚かな説教と神の知恵を選んだのです。

サタンは、私たちが騙して、ギミック、キャンペーン、宣伝などの肉的方法（自分で作った方法）を使わせ、神が与えてくださる神の力のある武器を捨てさせようとしています。

この箇所で、パウロが私たちの武器が何であるかを教えていないことに気がつきましたか？  
しかし、パウロはいくつかのヒントを与えています。  
これまで、私たちの武器について、3つのことを見てきました。

一つ目は、肉のものではなく、霊的なものであるということです。  
第二に、その武器は神にあって強大なものであるということです。  
神の力が込められています。これは、人間の方法論や知恵には言えないことです、それらには神の力はありません。

第三に、これらの武器は要塞を破壊します。要塞を破壊します。  
それは、「要塞を破壊するための神の力」（4節）です。それは、私たちの武器が何に向けられているかという次の問題につながります。

私たちの「何」が戦いなのか

この武器が何なのか、まだ疑問に思っているかもしれません。神から与えられ、神の力を受け、要塞を破壊することができる霊的な武器とは何でしょうか。

この質問に答える前に、私たちはその要塞が何であるかを知る必要があります。

私たちが戦っているのは何ですか？

ターゲットは何ですか？

私たちが戦っているのは、ACLUなのか、同性愛ロビーなのか、中絶手術をする医師なのか、それとも政党なのか。我々の敵は誰なのか？我々の武器は何に向けられているのか？

私たちの戦いの武器は、肉のものではなく、要塞を破壊するための神の力です。”私たちの戦いの武器は肉ではなく、要塞を破壊するための神の力なのです”。

ある人は、その要塞とは、悪魔の要塞、天の権力構造、世代間の呪い、呪文、悪魔のヒエラルキーなどだと言います。

したがって、私たちの武器は、悪魔の力を弱め、悪魔を妨げ、人々を呪いから解放し、これらの要塞を祈り倒し、霊を追い払うための方法や手段であると結論づけています。

パウロはこれらの要塞をどのように表現しているのでしょうか。

パウロは、「私たちは、神の知識に逆らって立てられた思索やあらゆる高尚なものを滅ぼし、あらゆる考えをキリストに服従させる」（2コリント10:5）と語っています。

彼は「思索」、「神の知識」、「思考」という言葉を使っています。

これらの言葉は、霊的戦いの本質について知る必要があることをすべて物語っています。「思索」や「議論」と訳されている言葉（NASB、NIV）は、「考え」や「想像」を意味します。

「想像力」。

それは「推論」や「思考過程」を意味しています。

私たちが破壊している要塞は、物理的な要塞ではありません。

悪魔のマントラや呪文や呪いでもありません。

悪魔的な階層的な権力構造でもありません。

要塞とは、精神的な要塞です。私たちは「思考」と「推論」を破壊します。

次のフレーズでは、これらの要塞を「神の知識に対抗して高められたあらゆる『高尚なもの』」と表現しています。

「高尚なもの」とは、これらの心（思考）の要塞のプライドを示しています。

この「高尚なもの」という言葉は、軍事要塞を包む塔を表す言葉として使われていました。

塔は空高くそびえ立ち、防御を提供します。

これらの精神的（心の）要塞は、神の知識に対抗するものです。

パウロは単に無邪気な考えを述べているのではありません。

パウロが言っているのは、精神的な要塞、つまり人間の心の推論、高慢で、自分に頼り、人間中心の哲学や思索についてです。

私たちが行う戦争は、神の真の知識に反して提起された、高慢で、高尚で、神に逆らうような人間の心の思索に対して行われます。

## 人間の心の砦

人間は神の知識に囲まれています。

彼は創造の中に神の知識を持っていますが、不義のうちにその真実を抑圧することを選んでいました。

5]

声は聞こえませんが、人間は創造主を絶え間なく証言する神の被造物に囲まれています。

人は、自分の心に書かれた神の律法を破ったことを絶えず告発する良心の中に、神についての知識を

持っています。

人は創造と良心の光に対してどのように反応するでしょうか。

人間は、光よりも闇を愛するので、不義のうちに真理を抑圧します。

人間の知性は暗くなり、その心は神に敵対しています。

人は、真理に従う代わりに、精神的な（心の）要塞を築き、不信仰の中で人質となり、安全を確保しています。

彼らは、高尚でプライドの高い考えに閉じこもり、神の知識に対して絶縁してしまうのです。

これらの要塞は、世俗的な議論、推論、科学（誤ってそう呼ばれているもの）、思考、哲学などで構成されており、それらは神と神の真の知識に敵対して、戦闘的に立ち上がっています。

再生されていない状態の人間は、自分自身が自己充足的な宇宙の中心であることを望み、自分の罪から立ち直ろうとせず、プライドに満ちた心を主権者である神に委ねようとしません。

彼は、不信の理由に囲まれた精神的な要塞で自分を人質にしています。

「哲学」、「知識」、「科学」、「進化」などの塔が、真理に対する防衛手段となっているのです。

心の要塞によって神の知識から隔離されている未再生の人間にとって、十字架の説教は愚かなことなのです。

人間は、暗黒の力と協力して、真理に対してあらゆる種類の「思索」と「高尚な考え」を立てます。進化論、無神論、道徳的相対主義、寛容さ、政治的正しさ、神学的自由主義、合理主義、自然主義、ヒューマニズムなどは、人間の心と頭の中に立てられた悪魔の欺瞞の例です。

人間は真実以外のものを喜んで信じ、それに対する防波堤を築くためにサタンが提供する嘘を利用します。

サタンが喜んでいて、人を誤りの中に閉じ込め、真実を見えなくするために働くからです。人間は闇を愛し、光を嫌う。

光を嫌って、高尚な想像や思索の裏に喜んで身を置いている。

フィリップ・ヒューズは、キリスト教の戦いを次のように説明しています：

それゆえ、キリスト教の戦いは、不信心な心が人間の墮落と神の恵みの真理に対して自らを強化しようとする砦である推論を打ち砕くこと、また、神の知識に対して高く掲げられたあらゆる高慢な防波堤を打ち砕くことを目的としているのです。11]

真理のために戦争が行われています。

最初から大嘘つきで殺人者であるサタンは、巧みな嘘で人を欺いています。

サタンと彼を助ける悪魔の仲間たちは、常に嘘を宣伝し、教え、進めています。

これらの嘘は、人間の心の高慢な憶測です。

私たちは真実をめぐる戦争をしているのです。

霊的な戦いは、真実の戦いです。私たちは、真理を前進させることによって、嘘と戦います。真理が前進するとき、神は栄光を受け、暗闇の力は敗北するのです。

霊的な武器を使って、霊的な戦いをするのです。

私たちは何と戦っているのでしょうか？

私たちは、人の心（思考）の中に建てられた誤りの推論、思考、憶測と戦っているのです。

ここで、関連する質問をします。私たちの武器は何ですか？

神にあって要塞を破壊する力を持つものは何か？”誤りを破壊し、真理を前進させるために、神は何をお使いになるのでしょうか。

心に突き刺さり、確信をもたらし、盲目を取り除き、人間の知恵を破壊し、賢者を混乱させ、人々に真理を知らしめることのできる神の真理は何でしょうか。

神の言葉です。

福音と神のことは、真の霊的戦いを行うための手段です。

真の霊的戦いとは、真理をめぐる戦いであることを理解すれば、私たちの武器が何であるかについて、ほとんど疑う余地はありません。

それは、真理の言葉に含まれる真理の福音です。

このように理解した上で、以下のおなじみの聖句を読んでみましょう。

福音は、信じる者すべてを救う神の力だからです。

十字架の言葉は、滅びゆく人々にとっては愚かなものですが、救われる私たちにとっては神の力なのです。

「私は賢者の知恵を滅ぼし、賢者の賢さを脇に置く」と書かれています。

「賢い人はどこにいるのか？律法学者はどこにいるのか。この時代の論客はどこにいるのか。神は世の知恵を愚かにされたではないか。」

神の知恵があっても、世がその知恵によって神を知るようにならなかったため、神は信じる者を救うために伝えられたメッセージが愚かであることを喜ばれたのです。

しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えます。

それは、ユダヤ人にとってはつまずきの種であり、異邦人にとっては愚かなことですが、ユダヤ人にもギリシャ人にも、召された人々にとっては、キリストは神の力であり、神の知恵なのです」（1コリント1：18, 23-24）。

これらの聖句には、霊的戦いの言葉が含まれているのがわかりますか？

神は、神の知識に反した人間の知恵を破壊します。

神は、宣べ伝えられた御言葉を通してこれをなさるのです。

福音はこれらの要塞を破壊するために強力です。

福音は、神のもとで、すべての考えをキリストのもとに捕らえるために力を発揮します。神はこの霊的戦いに人間の肉的方法を用いません。

神は、神の力を備えた唯一の道具、すなわち神の御言葉を用います。みことばの宣教や福音の宣教は、人間が作った肉体的な武器ではありません。

その効果は、人間の知恵に頼るものではありません。

この真理の武器は、「肉によらない」ものです。”パウロは、コリントでの説教の働きについて、1コリント2：1~5で述べています。

また、兄弟たちよ、私があなたがたのところに来たとき、私は言葉や知恵が優れているからといって、神のあかしをあなたがたに宣べ伝えるために来たものではありません。

わたしは、あなたがたの間では、イエス・キリストと、その十字架につけられた方のほかには、何も知らないと決めていたからです。

わたしは、弱さと恐れとおののきとをもって、あなたがたといっしょにいました。わたしのメッセージと説教とは、知恵による説得ではなく、聖霊と力とをもって示すものでした。

人の知恵に頼るのではなく、神の力に頼るのです。

もしパウロが肉の武器を使おうとしていたら、「知恵のある説得力のある言葉」を使っていたでしょう。

パウロが肉の武器を使おうと思えば、「知恵のある説得力のある言葉」を使ったでしょうし、自分の弁舌やレトリックでコリント人を感動させようとしたでしょう。

パウロは、コリントの人々の世俗的な感性にどれほど印象的であったとしても、そのような肉体的な手段に頼ることはありませんでした。

パウロは聖霊の力で福音の真理を説いたのです。2コリント6：3でパウロは、自分の働きが「信用されない」ことがないように弁護しています。

パウロは、自分の働きが信用されないことがないように、自分の働きを弁護し、また、働きの中で受けた困難について述べています。

しかし、苦難、困難、苦悩の中にあっても、パウロの宣教は、「純粹さ、知識、忍耐、親切、聖霊、純粹な愛、真理の言葉、神の力、右手と左手のための義の武器」（2コリント6：4-7）であった。

神の武具の要素の一つは、「神の言葉である霊の剣」です。

パウロは、靈的な領域における真の有能な戦士でした。彼は、福音の真理とその忠実な宣べ伝えに常に関心を寄せていました。

パウロは、靈的な戦いについて話し合う中で、「鎖につながれた大使である私が、大胆に福音の神秘を伝えるために、私の口が開かれるようにしてください」（エペソ6：18-20）と祈りを求めました。

福音宣教は、神にあって救いにつながる力を持っています。

福音宣教は、人々を暗闇の王国から光の王国へ、誤りから真理へ、サタンから神へと救います。私たちの戦いの「理由」パウロは5節で、私たちが真理のための戦いに従事する理由を説明しています：

「...私たちは、すべての思いをキリストの従順に捕らえています」（2コリント10：5）。

この節の最後にある「思い」と訳された言葉は、この節の最初にある「思索」と訳された言葉とは異なります。「思い」と訳された言葉は、心の動機や意図を表すのに使われました。

私たちが戦っているのは、心のあらゆる意図、思考、工夫をキリストに従わせるためだと言えるでしょう。

私たちは誰を捕虜にしているのでしょうか？

私たちが捕虜にしているのは、かつて自分の心の砦に閉じこもっていた人たちです。

かつてキリストに従わず、嘘の城に捕らえられていた人たちを、神の力によって福音が破壊し、キリストの捕虜にするのです。

これは私たちがよく目にするものではありません。

靈的戦いについての聖書の記述は、今日、ほとんどのキリスト教会で教えられているものとは全く異なります。

真の靈的戦いとは、悪魔と手を取り合って戦うこと、呪文を唱えること、特定の祈りをする事、そしてサタンから領域を奪うことだと言われています。

真の靈的戦いとは、領土の奪い合いではなく、真理の奪い合いなのです。

皮肉なことに、現代の教会は、悪魔との戦いに夢中になっているように見えますが、真理に対しては完全に無関心になっています。

現代の教会は、真理を軽視しているため、本当の靈的戦いを行うことができません。

教会は、神から与えられた唯一の武器を脇に置き、人間が作った肉の武器を使っていますが、これでは人が囚われている精神的要塞を壊すことはできません。

キリスト教のテレビやラジオでは、サタンが拘束され、叱られ、祓われる様子がよく流れています。教会では、24時間の祈祷会が開かれ、スピリチュアル・マッピングが行われています。

教会では、24時間の祈祷会が行われたり、スピリチュアル・マッピングが行われたり、「解放のミニストーリー」が数多く行われています。

ほとんどの教会は、福音を語る事の出来ない「クリスチャン」であふれています。

彼らは何十人もの偽教師を容認し、そのミニストーリーをサポートしています。

現代の教会は、真理と誤りを見分ける能力を失い、意欲さえも失っています。教会は、真理のために立ち上がることにも、真理を説き教えることにも関心がありません。

私たちは、真理は人々を分裂させ、不必要に怒らせるものだと言われています。

その代わりに、私たちは一致、愛、目的、そしてもっと前向きなことに焦点を当てるべきです。と言われています。

罪、地獄、怒り、裁き、悔い改め、神の義のような厳しいテーマは無視されるだけでなく、完全に避けられています。

サタンは、現代の教会の魅力をこれ以上喜ぶことがあるでしょうか？

私はそうは思わない。

あなたは一日中、サタンを縛ることができます。

彼は気にしません。

あなたが福音を分かち合わない限り、真理のために立ち上がらない限り、あるいは彼の要塞の誤りや嘘を攻撃しない限り。

あなたが顔が青くなるまで彼を叱責しても、彼は大勢の人々を騙してそのまま進んでいきます。

彼は気にしません。あなたの愛と焦点が、真理、健全な教義、そして福音を宣べ伝えることでない限りは。

サタンを束縛したり、サタンを叱ったりすることは、全く何の役にも立たない行為です。

それらは、「真理の柱と支え」（1テモテ3：15）となるための召命を放棄した教会のために、人間の頭の中で作られた非聖書的な慣習です。

サタンは、福音に無知で、福音を守ることに無関心な人々でいっぱいの教会を好みます。

正義と悪、真理と誤りの境界線が曖昧で無視されている教会で、サタンは繁栄します。

教会の指導者たちが、真理や教義の問題に関心を持つべきではないと言うのを聞くと、彼は喜びます。

統一と愛のためには真理が犠牲になるべきだと考える「クリスチャン」を喜んでいます。

彼は、真理に無知な「クリスチャン」を愛していますが、彼らは最も効果のない戦士だからです。

では、霊的戦いとは何でしょうか？私たちはそれをどのように定義するのでしょうか？お祓い、解放のミニストリー、先祖の罪を告白すること、世代間の呪いを放棄することでしょうか？サタンを叱ること、サタンを縛ること、悪霊を穴に落とすことでしょうか？縄張り意識を持った霊を祈り倒し、キリストの血の中で神のために場所や人を主張することでしょうか？

いいえ。そうではありません。千倍も違う。

霊的戦いとは、失われた罪人に福音の真理を大胆に宣べ伝えることです。

福音は、そして福音だけが、神のもとで救いにつながる力を持っています。

福音は、サタンの嘘で構成された反神の要塞を破壊します。

福音は、暗闇の王国とサタンの支配から人々を解放します。

私たちは、「彼らの目を開いて、暗闇から光へ、サタンの支配から神へと立ち返り、罪の赦しを受け、キリストを信じる信仰によって聖別された人々の中に受け継ぐことができるように」真理を宣べ伝え、守らなければなりません（使徒26：18）。

霊的戦いは、領土ではなく真理をめぐる戦いです。

それは、悪魔との手と手の戦いではなく、神の真理を宣べ伝え、守ることなのです。

私たちは、人をキリストの捕虜にして自由にする仕事をしています。

私たちは、神が与えた唯一の強力な武器である福音の真理を使い、それを大胆に宣言して、要塞が崩れるのを見ます。

私たちは、真理を宣べ伝え、説き、教え、支持し、守ります。

そうすれば、高慢で、未練がましく、罪深い人間は、自分の主義主張、議論、合理化、世俗的な哲学が周囲で崩れていくのを見ることができます。

彼は言い訳の余地もなく、神の真理と神の言葉の前に裸で残されます。

サタンの嘘は、真理によって暴かれ、破壊されます。

これが真の霊的戦い、すなわち真理の戦いなのです。

さあ、外に出て、良い戦いをしましょう